

# 物価上昇に賃金は追いついていない!!

追加署名分  
100筆提出

## 「昨年と同等を目指したい」は認められない!!

モチベーション  
上がるわけない



今こそ国労共に生活改善・労働条件改善に向け奮闘しよう。

任です。異常な物価上昇は社員の生活に大きな負担となっており、それを補う賃上げをおこなうことが貨物会社の責

社員満足度やモチベーションを上げるには  
貨物会社が誠意を以て国労要求に応えることである。

物価上昇を上回る賃上げが出来ないのは4年連続の単体経常赤字と連結

黒字確保がギリギリの状況となっていることを理由としていますが、果たし

てその理由が通用するのでしょうか。

2000年から2017年まで18年間連続ベアゼロでしたが、その間に

経常赤字となったのは2000年、2008年、2009年の3年間でした。

また、その後、2017年から最高益を上げ、2018年(3000円)、20

19年(2000円)のベア実施、2020年(2000円)の賃金改善を行っ

てきました。最高益を上げても社員には還元することなく僅か700円とい

うもので社員の生活は改善することはありませんでした。

2022年には平均3000円、2023年平均1000

円、2024年平均1800円と労働者間に格差をつけ

る率を含めたベアを実施していますが、世間の動向や社

員の生活実態に背を向けたものです。

異常な物価上昇は社員の生活に大きな負担となっ

ており、それを補う賃上げをおこなうことが貨物会社の責

任です。

任です。異常な物価上昇は社員の生活に大きな負担となっており、それを補う賃上げをおこなうことが貨物会社の責



世間の賃上げに対する機運は高まっている。

貨物会社の「昨年同等を目指す」考えは認められない!

コロナ前の2019年と2023年を比較すると国内総生産(名目)7.

1%増、国民総所得9.1%増と経済指標の水準は戻りつつあります。また、

コロナの行動規制緩和が行われたことから人流回復による経済効果が現れ

ているものの、消費者物価指数6.2%増に対し、現金給与総額1.8%増、

定期給与2.3%増、賃金指数3.1%増と物価上昇分をカバーしきれない

ままです。食料品を中心とした値上げが3年近く続いており、労働者の家計を

圧迫しています。

貨物会社の賃上げに対する考え方については、「物価上昇や世の中の動向、

直近の業績で判断する。」としていますが、この数年、賃上げに対する世の中

の動向は政財界の要請もあり実施傾向にある中で、昨年の大企業の賃上げ率

は5.58%で、従業員500人以上の大手企業を対象とした調査結果では、

定期昇給にベアアップを加えた月額賃金の引き上げ額は平均で1万92

10円となっています。一方で貨物会社の賃金引き上げは実施しているもの

の、物価上昇分には全く追いついていません。

第3回交渉において示した会社の考えは、物価上昇

分、世間の動向、前年に比べ大幅に回復している実態

が十分にあるにもかかわらず、「昨年同等を目指したい」

とする考えは、さらに貨物会社で働く労働者や関連会社

で働く労働者の生活は一層厳しくさせるものです。

